

【現代風“組織一丸”マネジメント】シリーズ

現場の“不祥事”の要因発見とその対策

難しい人間関係の基本的な部分を見るための『まねじめんと』

【不祥事への特效薬はない？】

『現場が引き起こす不祥事に特效薬はない』と言われることがあります。あるいは『人材のやる気や誠実さを向上させるには、それ相応の処遇が必要だ』と指摘されることもあります。

しかし、本当にそうなのでしょうか。そして“現場の不祥事回避”には、厳しい“管理監督”以外に“方法はない”と言えるのでしょうか。

【その“特效薬”発見に取り組んだ事例】

そんな疑問に、真っ向から取り組まれた経営者がおられます。製造業を営むA社の社長です。

社長は“製品の不良を見落としたり、見て見ぬふりをしたりする現場の動向”に注目し、その原因と対策を、長年検討されて来ました。

そして、まず“現場”が、“不祥事”を引き起こしてしまうほどに“仕事に情熱を失う”背景には、大きく分けて“3つの要因”があるという結論に至ったのです。

【問題を引き起こす“3大要素”】

その要因とは、“自社商品に対するプライドの喪失”と“小事への不忠実”、そして“しばしば誤解が生む経営への不信感”なのだそうです。

【“プライド喪失”と“誤解”の問題】

そして“プライド喪失”を、商品の開発や改善の経営テーマとし、“誤解が生む不信感”を、社内の相互理解の課題として取り組むなら、一定の効果が出ると指摘されます。

現場の不都合対策には、“不都合行動”自体を直接的に封じ込めるのではなく、その“要因”となる部分にメスを入れながら、間接的に取り組む必要があるということです。

【“小事への不忠実”とは…？】

ただ“小事への不忠実”については、現場担当者個人の意識も重要になります。現場での重要行動に、普段の“ささいな”事柄への取り組み姿勢が“そのまま反映される”としたら、“ささいな行動”を大切にす意識が育たなければ、大事に向かう姿勢の改善も難しいからです。

【ご希望者にはレポートを差し上げます！】

しかし、それらは実際的に何を意味しているのでしょうか。A社の社長の体験をまとめたマネジメント・レポートをご用意しました。

**定期購読希望者には、完全版をお送りしますの
で、ご遠慮なくご一報ください。**



時々、“あり得ない”とも感じられる“企業現場の不祥事”が、マスコミを賑わすことがあります。どうして“現場”は、考えにくい“行動”に出てしまうのでしょうか。そして、そんな“行動”を防止する方法はあるのでしょうか。

もちろん“人の行動”を、100%コントロールするのは難しいでしょうが、“方法はある”と指摘される経営者がおられます。数年前に、自社現場の“不都合”軽減に成功したA社の社長です。その“内容”は…。

少数精鋭でビジネスに取り組む皆様、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぶりめんとニュース』にご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>

わたくしたちは、“ヒト”に関する重要課題の提言を通じて、皆様方の経営をご支援申し上げます！